



今月の題字
近藤耕基君
(山田南小2年)

田町のわだい

「ふるさと体験塾」でお手玉作り 見て上手にできたでしょう

2月19日、山田町ふるさと体験塾のお手玉作り教室が町中央コミュニティセンターで開かれました。本年度最終となるこの日は南小、北小、大沢小の児童ら11人が参加。講師の平野千恵美さん（長崎）の指導を受けながら布を筒状に縫って底を絞り、中にわたと鈴、ペレット（プラスチックの粒）を詰め3個のお手玉を作りました。子供たちは慣れない針仕事に悪戦苦闘していましたが、ようやく完成したお手玉を手に、満足げな表情を浮かべていました。



おやつ作りに10人が挑戦 手作りの楽しさ存分に味わう

船越公民館主催の「少年少女教室」が2月5日、船越漁村センターで開かれました。この教室は子供たちに週休土曜日を有意義に過ごしてもらおうと開かれているもので、小学生ら10人が参加。町食生活改善推進員の坂本カヨ子さんの指導でおやつ作りに挑戦しました。この日のメニューは「トマトのクッキーパン」「ふわふわワッフル」など3品。子供たちは材料を混ぜ合わせたり、生地を焼き上げたりするなど、手作りの楽しさを存分に味わっていました。

織笠保育園児がイチゴ狩り 取れたての甘さが最高だね

織笠保育園の年長組7人が2月17日、花と緑の公園市場「花まりん」のビニールハウスでイチゴ狩りを楽しみました。同市場を運営する「花と緑の地域づくり協議会」（藤原長一会長）の協力により行われたもので、この日は藤原さんが栽培している品種「さちのか」3,500株を開放しました。甘い香りが漂うハウス内で、お目当てのイチゴを探し回る園児たち。大粒で真っ赤なイチゴを摘み取って口に運んで「とっても甘くておいしいね」と舌鼓を打っていました。



人づくり町民の集い開催 地域ぐるみでの教育が重要

町生涯学習推進本部など主催の「人づくり町づくり町民の集い」が2月27日、町中央公民館で開かれ、町民や教育関係者など580人が参加しました。第一部では俳優の八名信夫さんが「出会い、ふれあい、人の味」と題し特別講演。「大人が子供たちに悪い事は悪いときちんと教え、他人の子供でも愛情を持って叱ってあげてください」と地域ぐるみの教育の重要性について語りました。第二部の教育振興運動実践活動発表では、荒川念仏剣舞の活動の様子などをビデオで発表。その後荒川小児童による舞の披露が行われ、会場からは盛んな拍手が送られていました。



科学研究発表会に児童90組 豆博士が研究成果を披露

「第31回児童生徒科学研究発表会」が2月4日、町中央コミュニティセンターで開かれました。身近なことに疑問を持ち、自ら解決する力をはぐくもうと町教育委員会などが毎年開催しているもので、今年は町内の児童90組が参加。昆虫や雪の結晶、ごみ処理に関するものなど、身近な自然や環境問題に目を向けた研究成果を披露しました。グラフや図表、写真などを上手に使い堂々と力説する豆博士らに、詰め掛けた父母らから大きな拍手が送られていました。



「房の沢Ⅳ遺跡」の出土品 228点が県指定文化財に

県文化財保護審議会が2月17日、本町の「房の沢Ⅳ遺跡」の古墳群から出土した^{やちひ}藤手刀を含む刀剣類や土器類など228点を県文化財に指定するよう県教育委員会に答申。4月に正式に指定される見通しとなりました。答申されたのは、刀剣類43点、馬具15点、鉄鍬42点。ほかに石器、土器、錫製品などを含みます。保存状態が良好な刀剣類をはじめ豊富な種類と数の遺物は、7世紀後半から8世紀にかけての蝦夷の墓制や文化、沿岸地方の古代を知る上で重要な資料。指定されれば県の有形文化財としては215件目で、そのうち考古資料としては13件目。本町では昭和47年10月に指定された大沢の^{ふしな}臥電梅に次いで4件目となります。